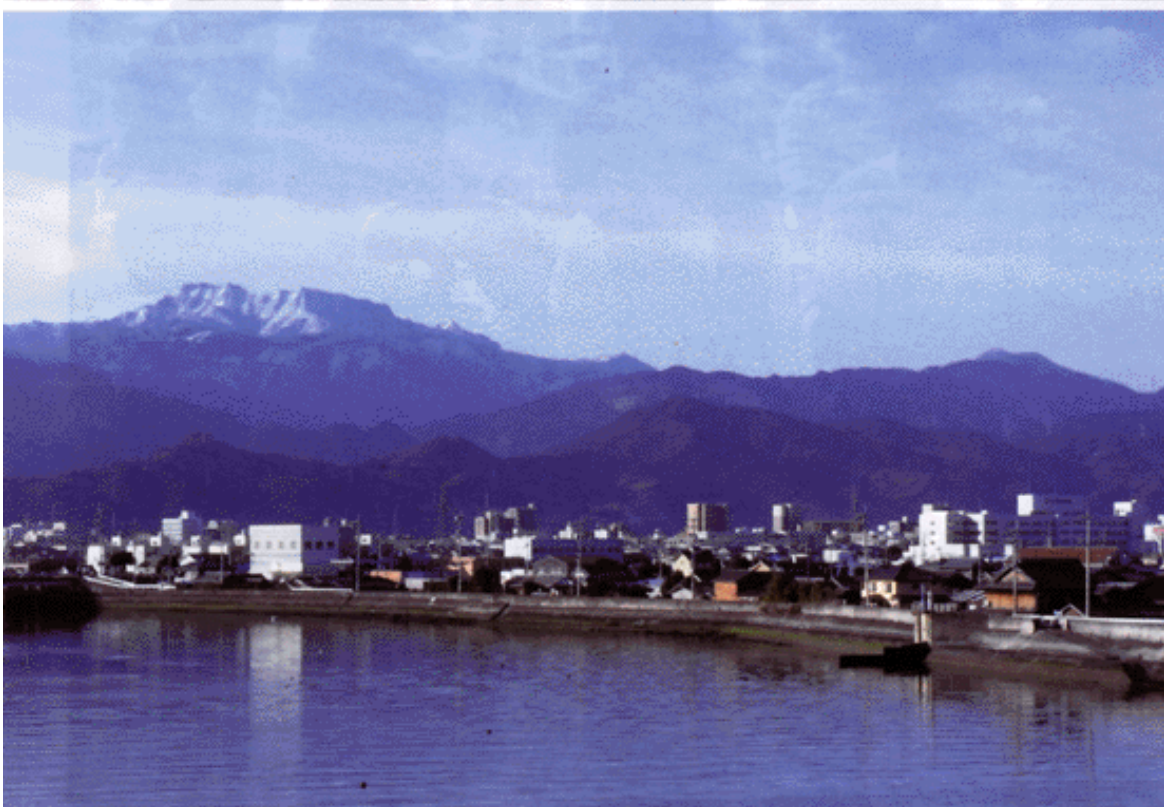


ふれあい
さいせい

発行

済生会西条病院
2010年新春号 第46号
西条市朝日市269-1
TEL (0897) 55-5100



冠雪の石鎧山と病院を、ひうち大橋から望む 撮影：医療情報管理室 神原 勝己

2010年の新年を迎えて

院長 岡田 眞一

院内学会を開催しました!!

医療情報管理室 神原 勝己

いしづち苑の初詣

いしづち苑 介護福祉士 森 圭太

いしづち苑のおモチつき

いしづち苑 介護員 高橋 タカ子

ニューフェイス

地域医療連携窓口が
できました!!

副院長・外科部長 石井 博

2010年の新年を迎えて

院長 岡田 眞一

院長
岡田 眞一

新年あけましておめでとうございます。

昨年猛威を振るった新型インフルエンザも、今年に入って、やっと鎮静化してきました。また、例年この時期から流行する季節性インフルエンザは、今年はまだほとんどみられません。疫学的に、一つのインフルエンザが大量に発生すると、他の種類のインフルエンザは、発生が抑えられるようです。今年の冬は、季節性インフルエンザの流行はなさそうですが、まだまだ油断禁物です。院内の発熱外来は、3月いっぱいまで続ける予定です。

さて、昨年9月、民主党に政権交代して新しい年を迎えました。選挙前、民主党は医療制度について、先進国OECDのレベルまで医療費を上げる必要がある、と非常に期待の持てる内容をマニフェストに掲げていました。しかし、現実には財源不足のため、私たちの期待通りにはなりそうもありません。今年4月からの診療報酬改定も『薬価・材料価格を1.36%引き下げ、診療報酬本体を1.55%引き上げて、全体で0.19%アップする』と発表されました。10年ぶりの実質引き上げと報道されましたが、このくらいの小幅なアップでは、とても今の医療状況が改善するとは思えません。地域医療を担う病院が、医師・看護師不足に陥らず、しかも経営的に安定するような医療政策が、早く打ち出されるように期待します。

また、当院は今年の7月からDPC(診断群分類包括支払制度)対象病院となります。バスなどを利用して医療の効率化を行い、急性期病院としての努力を行ってまいります。DPCは、当院の医療の状況が把握できるだけでなく、他病院との比較ができます。多くのデータを参考にして病院経営を見直し、地域医療に役立てていきたいと思っております。

今年の病院のテーマは『挨拶(笑顔での)とコミュニケーション』です。院内の職員間だけでなく、患者さんとその家族の方に対しても笑顔で挨拶を行ってまいります。そして、明るく風通しのよい病院となるように、今年も職員全員で努力致します。皆様方には、ご支援の程をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

院内学会を開催しました!!

医療情報管理室 神原 勝己



平成21年11月28日、当院2階・南棟講堂において院内学会「患者さんが笑顔になるために」が開催されました。

今回のテーマは「患者さんが笑顔になるために、私たち職員は何をすべきか？」

このテーマに各部署から計20題に及ぶ発表が行われ、各部署のさまざまな取り組みや分析が発表されました。

手術室では患者さんにあつたBGMを流す。薬局や検査室からは、まず自分を磨くことで技術と接遇の向上を図ろうという提案が。施設管理課からは具体的な施設改修による患者サービスの向上例。栄養部からは、栄養指導時のコミュニケーションの重要性。総務課からは外来環境の改善。用度課からは挨拶の重要性。医事課からは、職員間の思いやりから生まれた余



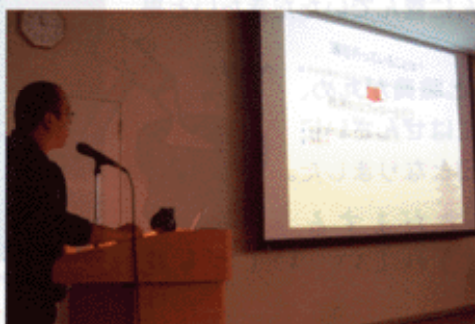
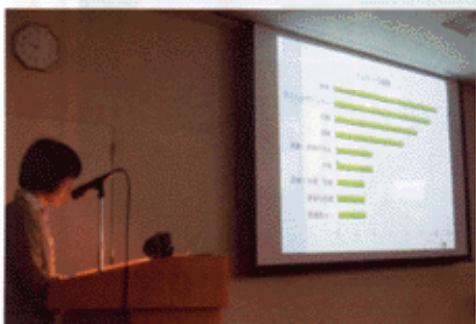
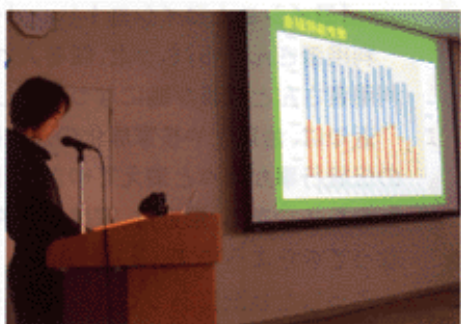
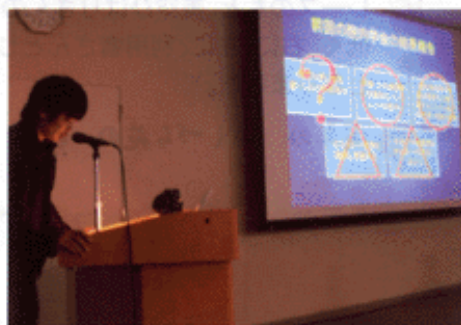
裕を患者さんへの親切な対応に繋げる。検診科からは、十分な説明と明るい環境づくり。病棟からは職場の人間関係改善の必要性。そして医局からは人気の保険CMを流用し、笑わない猫とアヒルでもここまで人気が出るんだから、表情のある私たちはもっと患者さんを笑顔に出来るはず…といった内容の発表がありました。

今回もさまざまな発表がありました。そのどれもが、接遇面の向上と自己研鑽、職員間のコミュニケーションの向上が患者さんの笑顔につながるのではないかという結論でした。

当院では、外来受付前にご意見箱を設置しており、毎月何通かの投書を頂きます。職員の接遇に関するものや待ち時間に関するものなど、みなさんから頂くご意見はさまざまです。

その貴重なご意見を元に、接遇研修の開催や電子カルテシステム、会計待ち番号表示システムの導入、人工クラゲ・絵画の設置と、ハード・ソフト両面での改善を進めてきました。しかし、それでもなお、患者さんの満足度を上げより良い病院にするためにはどうすれば良いのか？私たちは院内学会や各種委員会活動を通して自問自答し、改善への努力を続けています。

いつの日にか投書がお叱りではなく、お褒めの言葉に変わり、患者さんや職員の笑顔の溢れる病院になれば…職員ひとりひとりが決意を新たにした院内学会でした。



いしづち苑の初詣

いしづち苑 介護福祉士 森 圭太

新年明けましておめでとうございます。

平成22年の寅年が明けて、新年が動き出した1月13日、いしづち苑4Fテイルームに、紅白の幕が張り巡らされ、いしづち苑神社が出現しました。

入所者さんは、職員に付き添われ、朱塗りの鳥居をくぐり、どこか見たことがあるような、神主さんのお祓いを受け、にぎにぎしく新年のお祈りをします。

参拝の後は、おしとやかな巫女さんから、お神酒をいただき、男性の入所者さんは大満足で、普段とは違うおしとやかさに、介護してもらっている職員と気がつかれていない方もおられたようでした。

その後のクジ引きでは、「大吉」「大吉」の声が飛び交い、利用者さんもうれしそうに参拝を終えられました。

初詣の締めくくりは「寅舞い」ならぬ「獅子舞い」の登場です。「獅子に噛まれると、幸せな一年が送れます」というキャッチフレーズのもと、美空ひばりさんの「お祭りマンボ」に乗って、高く、低く、右に、左に、利用者さんとじゃれあった楽しい「獅子舞い」となりました。

寅年の いしづち苑の 初詣 明るく楽しく ありがたく



いしづち苑のおモチつき

いしづち苑 介護員 高橋 タカ子

丑年の平成21年も、残り少なくなった12月26日(土)、いしづち苑1階デイサービスルームの中央に、石臼が登場しました。

やがて、利用者さん達の笑顔に迎えられた、ふかしたモチ米が、臼の中に入れられ、いよいよおモチつきの始まりです。

「ヨイショ！ヨイショ！」 「ベッタン・ベッタン」

利用者さんから「もっと、腰を入れて！」という掛け声もかかり、利用者さんと職員が輪になった楽しいおモチつきとなりました。

近年は、合理化や核家族化の波に翻弄され、昔懐かしい日本古来の伝統行事が次々と消えてゆき、以前には、年の瀬の風物詩であったおモチつきも、最近では、家庭から杵の音が聞かれることが少なくなってきたようです。

こうした状況にあつて、いしづち苑では利用者さんと一緒に、季節の伝統行事に取り組み、利用者さんに喜んでいただきたいと思っております。

つきたてのおモチは、利用者さんと職員が丸め、お飾りモチや餡モチを作り、おやつにはぜんざいに入れて美味しくいただき、楽しい一日となりました。

年の瀬に ヨイショの音が こだまする

笑顔うれしい いしづち苑



地域医療連携窓口ができました!!

副院長・外科部長 石井 博

診察までの時間が長くなっており大変申し訳ございません。

お待たせする時間が短縮するように日々改善をしておりますが、来院される方の増加に伴い待ち時間が増加しております。

新規コンピューターシステムの導入により会計までの待ち時間は6分の1程度に、薬剤までの待ち時間は3分の2程度まで短縮できました。

誤った政策により引き起こされた医療崩壊により勤務医師数が特に地方都市において極端に減少し、今後10年間も医師数の減少は続きます。そのため外来診察をする医師数を増やすことができず診察までの待ち時間は残念ながら短縮できる見込みがありません。

私たち急性期病院の役割は、入院が必要である中等症から重症の方、外来通院となっても引き続き専門的な治療を必要とする方および救急や急患で緊急に治療が必要な方に対する治療であり、これらの方に対して重点的に労力

を必要とします。

開業医の先生は、通常の皆さんの状態や社会生活を良くご存じであり、通常と異なった新たな疾患や状態を皆さんの顔色一つで感知され、専門医あるいは詳細な検査のための病院受診を勧められます。通常は開業医の先生に診察や投薬をお願いし、必要となれば専門医への受診という2段階の「かかりつけ医」制度は、皆さんにとって主治医が2名となることの利点があり、私たち勤務医師としては重症で専門性を必要な方に労力が発揮できる利点があります。

医療は残念ながら限られた資源ですので、今後も必要な際に十分に利用できるように「かかりつけ医」制度を十分にご利用いただければ幸いです。

当院では、開業医の先生に一度診察をうけて紹介され来院された方を優先して診察するための「地域医療連携窓口」を設置いたしました。待ち時間を短縮するため開業医一勤務医の連携を十分にご利用いただければ幸いです。

地域医療連携窓口

紹介患者さん専用の
受付ができました！

受付時間 8時30分～17時00分まで

*上記時間外・病院休診日は窓口もお休みです。一般の受付窓口をご利用ください。